



熊本高校を昭和 42 年に卒業した仲間の作品です。故神宮司先生、故廣島正君の遺作を始め、42 会の仲間 14 名の 32 点の作品を鑑賞して戴ければ幸いです。(部長：佐伯眞知子)

なお、展示された作品は、展示されたまま、カメラで撮られていますので、展示の場所によっては良く撮れていないものもあります。出品者にはお詫びを申し上げます。(服部、狩塚)



●熊本42会 出品者

清田 憲男	6室
山田 信一	4室
狩塚 精一	9室
服部 幸夫	5室
上田 啓司	5室
吉崎 暢達	9室
菅野 隆明	5室
長渡 純三	9室
鈴木慎一郎	5室
陣内 勝治	7室
佐伯真知子	7室
田中 信明	1室
田代 順二	11室
米村 勲	5室

●遺作

神宮司 正	先生
廣島 正	10室

●熊本42会 芸術部

部長 佐伯真知子	7室
副部長 長渡 純三	9室

●熊本42会

会長 佐伯真知子	7室
事務局長 辰巳 仁	9室

出品目録



第14回 **熊本高校42会芸術祭**

本芸術祭は、熊本高校を昭和42年に卒業した仲間の作品展です。
 本年度で第14回目を迎えました。今回は神宮司正先生・廣島正君の遺作をはじめ、
 42会の仲間14名の様々なジャンルの力作を鑑賞していただければ幸いです。
 今後も続く限り、制作・出品に取り組みたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほど
 よろしく願いたします。本日はお忙しい中、ご高覧いただき、ありがとうございます。



恩師 神宮司 正先生 作「宇土轟水源地」切り絵

会期／ 2025年5月13日(火)～24日(土)
 会場／ ギャラリーカフェ不言亭
 熊本市中央区南千反畑町12-19
 TEL.096-352-3532

第14回 熊本高校42会芸術祭

出品者

室

作品名

サイズ

ジャンル

清田 憲男

6室

山河静聴Ⅲ

木版画

やまなみ彩雲

〃

山田 信一

4室

春爛漫

写真

盛夏

〃

「SL銀河」最後の秋晴れ

〃

冬の笹川流れ

〃

狩塚 精一

9室

花菖蒲まつり

ワイド四ツ

写真

阿蘇中岳

〃

〃

菊池溪谷

〃

〃

服部 幸夫

5室

春疾風(はるはやて)

ワイド四ツ

写真

木陰の笹百合

〃

〃

燃える紅葉

〃

〃

冬茜

〃

〃

上田 啓司

5室

青井阿蘇神社

ワイド四ツ

写真

夕暮れ

〃

〃

曼珠沙華

〃

〃

吉崎 暢達

9室

絵りの妖精

F10

水彩画

菅野 隆明

5室

俳画 - 夏薊

日本画

熊本42会 Art Festa

出品者

室

作品名

サイズ

ジャンル

長渡 純三

9室

夜明け方の清水港

写真

チェスキークルムロフ城(チェコ共和国)

〃

鈴木慎一郎

5室

根子岳(冬景色)

F6

油彩画

紫陽花

SM

アクリル画

陣内 勝治

7室

小湊鉄道の春

F8

アクリル画

佐伯真知子

7室

遙

F10

油彩画

あかつき

〃

〃

田中 信明

1室

タイトルのないレコードジャケット

デザイン

田代 順二

11室

偶然の造形(アブ)のバッグ

B2

デザイン

米村 勲

5室

春夏秋冬「衆生：春分の朝」

A4

写真

春夏秋冬「水無月：梅雨の晴れ間」

〃

〃

春夏秋冬「長月：空を切り裂くジェット雲」

〃

〃

春夏秋冬「師走：二重時の夕暮」

〃

〃

遺作

神宮司 正 先生

恩師 高2同卒

宇土轟水源地

切り絵

熊本城

〃

廣島 正

10室

八雲の「青柳之話」

切り絵

長六橋と川尻電車

〃

観 望 同

頁	出品者名	室	題	ジャンル	その他
4	清田憲男	6	山並み彩雲	木版画	
5	清田憲男	6	山河清聴Ⅲ	木版画	
6	山田信一	4	春爛漫	写真	
7	山田信一	4	盛夏	写真	
8	山田信一	4	「SL 銀河」最後の別れ	写真	
9	山田信一	4	冬の笹川流れ	写真	
10	狩塚精一	9	花菖蒲祭り	写真	写真&俳句
11	狩塚精一	9	阿蘇中岳	写真	写真&俳句
12	狩塚精一	9	菊池溪谷	写真	写真&俳句
13	服部幸夫	5	春疾風(はやて)	写真	写真&短歌
14	服部幸夫	5	木陰の笹百合	写真	写真&短歌
15	服部幸夫	5	燃える紅葉	写真	写真&短歌
16	服部幸夫	5	冬茜	写真	写真&短歌
17	服部幸夫	5	ユウスゲ	写真	写真&短歌
18	上田啓司	5	青井阿蘇神社	写真	
19	上田啓司	5	夕暮れ	写真	
20	上田啓司	5	曼殊沙華	写真	
21	吉崎暢達	9	実りの妖精	水彩画	
22	菅野隆明	5	夏薊(なつあざみ)_1	俳画	俳句&日本画
23	菅野隆明	5	夏薊(なつあざみ)_2	俳画	俳句&日本画
24	菅野隆明	5	夏薊(なつあざみ)_3	俳画	俳句&日本画
25	菅野隆明	5	夏薊(なつあざみ)_4	俳画	俳句&日本画
26	長渡純一	9	夜明けの清水港	写真	
27	長渡純一	9	チェスキークロムロフ城	写真	
28	鈴木慎一郎	5	根子岳 (冬景色)	油彩画	
29	鈴木慎一郎	5	紫陽花	アクリル画	
30	陣内勝治	7	小湊鉄道の春	アクリル画	
31	佐伯眞知子	7	遥	油彩画	
32	佐伯眞知子	7	あかつき	油彩画	
33	田中信明	1	タイトルのないレコードジャケット	デザイン	
34	田代順二	11	偶然の造形 (アプリのバグ)	デザイン	
35	米村 勲	5	春夏秋冬「弥生」春分の朝	写真	
36	米村 勲	5	〃 「水無月：梅雨の晴れ間」	写真	
37	米村 勲	5	〃 「長月：空を切り裂くジェット機」	写真	
38	米村 勲	5	〃 「師走：二重峠の夕暮れ」	写真	
39	故神宮司正 先生	高2 回卒	宇土轟水源地	切り絵	
40	故神宮司正 先生	高2 回卒	熊本城	切り絵	
41	故 廣島 正	10	長六橋と川尻電車	切り絵	
42	故 廣島 正	10	八雲の「青柳(あおやぎ)之話」	切り絵	

44～46 頁に、展示後の夕食会および撤収後の慰労会のスナップを掲示してあります。



清田憲男 6室 やまなみ彩雲 (木版画)

熊本へ行く！…熊本に帰る？所用を済ませ、阿蘇へ向かう。南阿蘇、草千里、大観峰等を回遊し投宿 湯の香りを満喫する。翌日、野鳥に起こされ九重へ急ぐ。ヒゴタイ公園沿いの空きスペースに車を止め、阿蘇5岳を眺める…故郷を離れて知る広大な「やまなみ」の色、風、匂い～ やっぱり、これがいい！！



清田憲男 6室 山河清聴Ⅲ (木版画)

鉄道がない時代、山陽道と山陰の往来は人馬に頼るしかなかった。その街道要衝に位置するのが備後西城町。宿場町として繁盛した時期があった。旅人、商人の疲れを癒す安心と寝床を提供した。一風呂浴びて食事を取ると寝具に包まれ寝息をたてる。川面の音は伴奏となり深夜は更けてゆく。



山田信一 4室 **春爛漫** (写真) 撮影場所: 錦川鉄道清流線 南河内 撮影年月: 2020年4月。

錦川鉄道は、山陽新幹線新岩国で乗り換えができます。ローカル線の常として、撮影にはひたすら待つことになるので、椅子と文庫本持参です。



山田信一 4室 盛夏（写真）

撮影場所：JR 西日本伯備線 伯耆溝口ー岸本 撮影年月：2022 年 8 月

同じ場所の特急「やくも」も撮りましたが、やはりひまわりには黄色い電車が似合います。気温 35 度を超える日で、日傘代わりに折りたたみの雨傘を差し、500ml のペットボトルを 3 本空けてしまいました。



山田信一 4室 「SL 銀河」最後の別れ（写真）

撮影場所：JR 東日本釜石線 宮守ー柏木平 撮影年月：2022 年 11 月

釜石線の撮影名所、宮沢賢治の銀河鉄道の夜のモデルになった橋梁です。実際のモデルは、手前に橋脚だけ残っている軽便鉄道ですが。線路はかなりの急勾配で、SLは何度も空転しました。



山田信一 4室 冬の笹川流れ (写真)

撮影場所：国鉄羽越本線 桑川ー今川 撮影年月：1969年2月

学生時代の撮影です。北海道からの帰路だったので、プラスの気温は暖かく感じました。
現在はこの場所には海岸に道路が通り、この風景は失われました。

テーマ「望郷」狩塚精一（奈良 在住） 以下3点

菊池川は民にとって豊穰の川です。私にとっては小学生までは遊びと学びの場でした。父から水泳を学び、先輩たちからは魚やエビ釣りを教えてもらいました。一方で、油断をすると死をもたらす大河でもありました。



狩塚精一 9室 花菖蒲祭り（写真）

「乙女らの 笑顔きらきら 花菖蒲」（俳句）

生まれ故郷玉名市高瀬の裏川（菊池川の支流）で、毎年5月に花しょうぶ祭が開催されています。8年前、紺紵・手甲・菅笠という田植え神事の装いで花菖蒲を摘む女子高生に出会いました。



狩塚精一 9 室 阿蘇中岳 (写真)

「夏雲や 父母目に浮かぶ 草千里」(俳句)

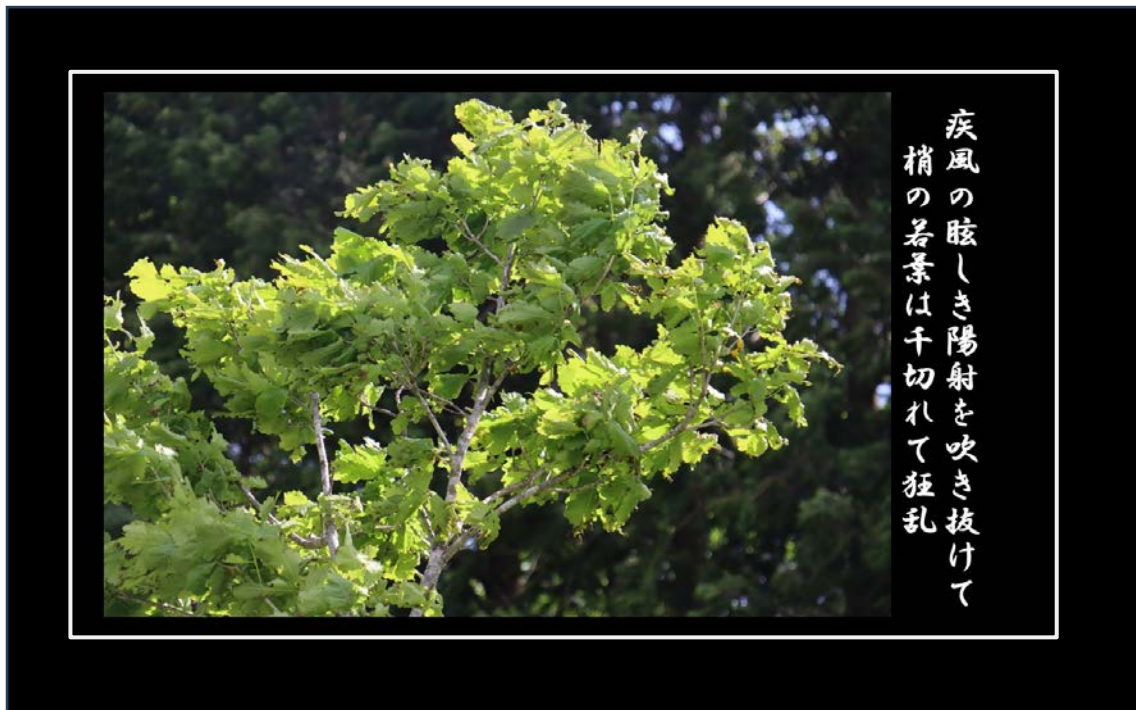
昭和 47 年 8 月、両親と初めて訪れた草千里で母の手弁当を開き、賑やかに噴煙を遠望しました。放蕩息子が社会人一年生として帰郷し、母はホッとした様子でした。



狩塚精一 9 室 菊池溪谷 (写真)

「菊池溪谷 岩にしみ入る 蟬しぐれ」(俳句)

中学時代の夏休み、友人達と急流の岸辺で飯盒炊飯を楽しみました。浸けている足が痺れるほどの冷たい清流でした。昨年 6 月に弟と溪谷を散策しましたが、二カ月後に弟は他界しました。



服部幸夫 5 室 春疾風(はやて) (短歌付き写真: photopoem)

「疾風の眩しき陽射を吹き抜けて 梢の若葉は千切れて狂乱」

山口県徳佐の船平山の旧ゲレンデは広い草原です。春の疾風が木の葉を引きちぎらんとしていました。容赦ない自然の厳しさに耐える若葉が、いじらしく感じられました。



服部幸夫 5 室 木蔭の笹百合（短歌付き写真：photopoem）

「木蔭には白き笹百合 木漏れ日を 拾って輝く深き翳なし」

山口県鹿野の長野山山頂の木蔭には、笹百合が咲き乱れていました。暗所に咲く、その姿は気品に満ち、また穢れなき美しさと慎ましやかさが漂い、心を打たれました。



服部幸夫 5 室 燃える紅葉 (短歌付き写真: photopoem)

「天を衝くもみじ葉夕陽に煽られて 薄暗き空に眩しく輝く」

山口市亀山公園には沢山の楓の木が紅葉しており、夕陽に映えていました。一瞬の幻想に現実を忘れてしまいました。生きておれば、こんな幸せにも遭遇できるのですネ。



服部幸夫 5室 冬茜 (短歌付き写真: photopoem)

「夕暮の森影暗き冬空を 燃ゆる落日明々と焦がす」

ありふれた日常の風景ですが、冬の日没には別の顔を見せて呉れます。燃えるような激情が感じられました。「風と共に去りぬ」にもこんな情景があったような----



服部幸夫 5 室 ユウスゲ (短歌付き写真: photopoem)

「夕泥^(なす)む山里見下ろすユウスゲは 今宵の命に全てを掛ける」

山口県徳佐のユウスゲが、薄暮の中で生きいきと開花していました。漆黒の夜を生きるユウスゲが純色の黄色で必死に咲いています。誰に見られることもなく-----。



上田啓司 5 室 青井阿蘇神社 (写真)

言わずと知れた人吉にある歴史ある神社です。ただ真正面から写してみました。



上田啓司 5室 夕暮れ (写真)

街中の夕暮れの寂しさと、茜色の明るさの対比を面白く感じました。



上田啓司 5室 曼殊沙華 (写真)

彼岸花とも言い、サンスクリクト語で、「赤い花」という意味だそうです。



吉崎暢達 9室 実りの妖精 (水彩画)



菅野隆朗 5 室 俳画__夏薊(なつあざみ) (俳句&日本画)



菅野隆朗 5 室 俳画__夏薊(なつあざみ) (俳句&日本画)

業平の句は伊勢物語の東下りの『から衣きつつなれにしつましあればはるばるきぬるたびをしぞ思ふ』の折句、かきつばたを下敷きに、恋多き歌人、色男へのオマージュ（尊敬・敬意）です。



菅野隆朗 5 室 俳画__夏薊(なつあざみ) (俳句&日本画)



菅野隆朗 5 室 俳画__夏薊俳画__夏薊(なつあざみ)

酔芙蓉は朝白く、昼は淡紅、夕方から紅に変化し翌朝しぼむ。暮れようとする時の空の移ろいに酔ったように赤くなる風情を詠みました。



長渡純三 9室 夜明けの清水港 (写真)

ポータライトが消える前の、清水港と富士山の静寂



長渡純三 9 室 チェスキークロムロフ城 (チェコ共和国) (写真)

ヴルタバ川上流。街並みに歴史への感動がわく



鈴木慎一郎 5室 根子岳（冬景色）（油彩画）

旧作です。高校美術部時代にスケッチ旅行でよく行った根子岳です。



鈴木慎一郎 5室 紫陽花（アクリル画）

出品前日に、一夜漬けで描きました。



陣内勝治 7室 小湊鉄道の春 (アクリル画)



佐伯真知子 7室 遙（油彩画）

今は“遙”かな所に。

最初の大きな樹の下で、待っている約束です。モコちゃんとそういう約束をしています。息子から預かった犬のモコは私達夫婦とともに15年半を過ごし、命を終えました。私の大好きなモコちゃん、もう暫く待っててネ。



佐伯真知子 7室 あかつき（油彩画）

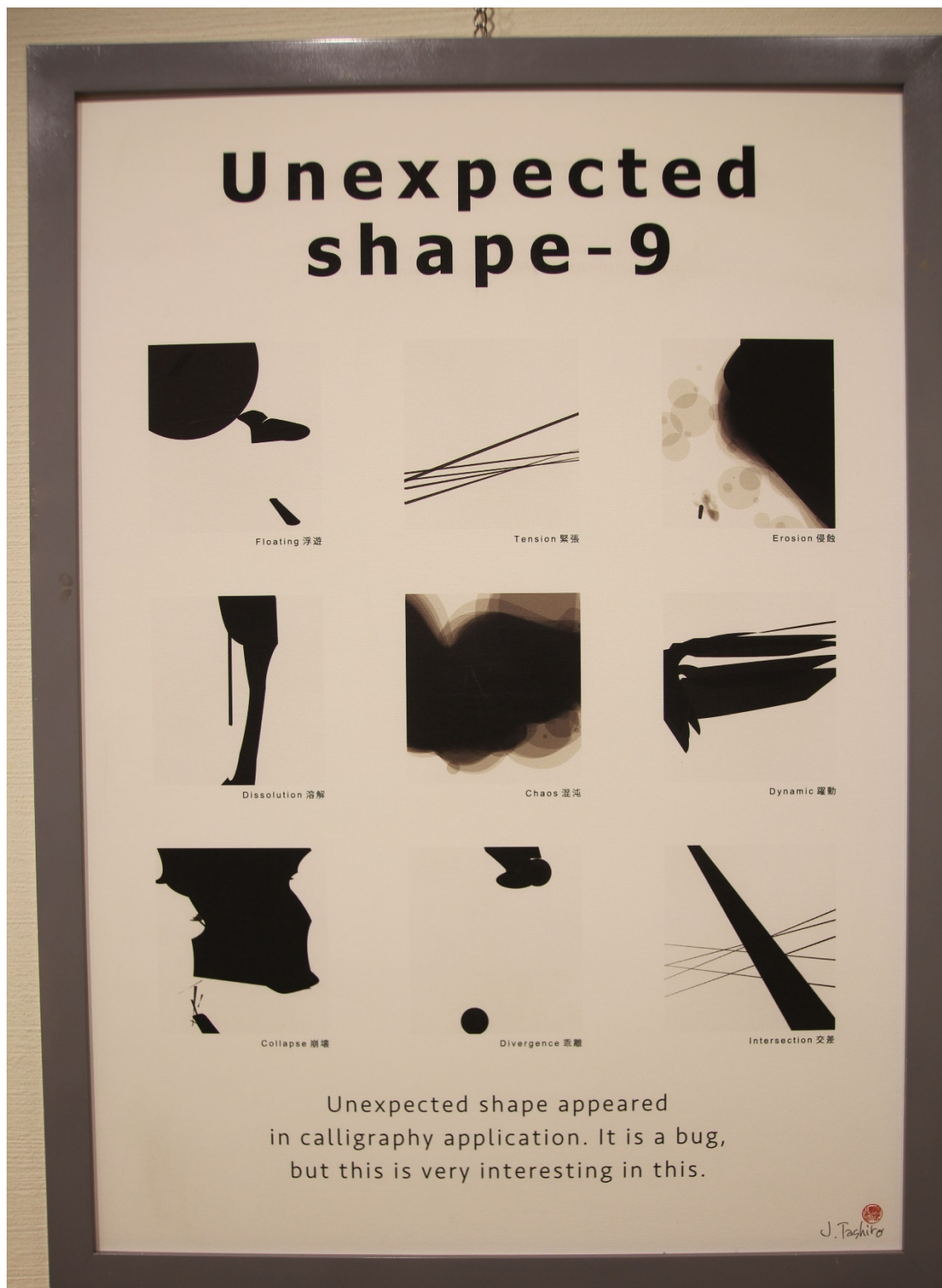
朝日も夕日も美しい江津湖。
通称、“中之島”を、無想の中で、静かに描いてみました。



田中信明 1室 タイトルのないレコードジャケット (デザイン)

熊高1年生の夏休み、東大に行った黒い秀才と新世界で上映されたビートルズの「ビートルズがやって来るヤァ!ヤァ!ヤァ!」を見に行ったのが運命の転換点。ちなみに、学校から不良映画のレッテルが貼られ、鑑賞禁止のお触れが出ていたような記憶あり。映画のシーンに痛く感動し、それまで謹厳実直だった私は世の中何でもあり__勉強しない決意(逃避?笑)を、、、。以後、私の傍らから音楽が消えたことはなく、現在に至っています。

音楽レコード・コレクションの一つに「ジャケ買い」というジャンル?があり、芸術性の高いアートからエロ・グロ・ナンセンスまで多種多様な表現で、中身のミュージック以外の楽しさを与えてくれる。今回、天邪鬼の私が選んだテーマは英語の言葉遊びエマノン (ノーネーム NO NAME)。商業作品としてはありえない言葉のない世界に、強烈な自己主張を内包させるアーティスト・ミュージシャンの心意気に惹かれますね。



田代順二 11 室 偶然の造形 (アプリのバグ) (デザイン)



米村 勲 5室 春夏秋冬「弥生」春分の朝 (写真)

春は、自宅マンションより東方のあけがた。熊本城都市中心部の広がり、その先に阿蘇の山々
枕草子の ”春は曙・・・”何かしら、もやっとした朝・・・



米村 勲 5室 春夏秋冬「水無月：梅雨の晴れ間」 (写真)

夏は阿蘇の空気が澄んだ中に、手の取れるのではないかと思うほどの低い綿雲。思わず車を止めて、ワンショット。



米村 勲 5 室 春夏秋冬「長月：空を切り裂くジェット機」 (写真)

秋は熊本市内への帰路、夕方 6 時前後の定期便の航跡。夕方の空を二つに切り裂いていくショット。



米村 勲 5室 春夏秋冬「師走：二重峠の夕暮れ」 (写真)

冬は二重の峠付近のススキの原野の先に有明海に沈む夕陽の美しさに iPhone を取り出しパチリと。

夕日はたなびく雲間に隠れ、有明海に光の帯。峠の薄暗く冷えた芒の原野と、残照との対比が素敵でした。



＜遺作＞ 神宮司 正 先生 恩師高2回卒 宇土轟水源地 (切り絵)



＜遺作＞ 神宮司 正 先生 恩師高2回卒 **熊本城**（切り絵）



＜遺作＞ 廣島 正 10 室 長六橋と川尻電車（切り絵）

ちなみに、作品中の漢文を、AI である DeepL で翻訳させてみましたが、どうやら、この切り絵とは無関係のように思われます。



<遺作> 廣島 正 10 室 八雲の「青柳^(あおやぎ)之話」(切り絵)

天国の廣島君はどんな想いでこの切り絵を刻んだのだろうか。「分からんでもエエ！」と肥後モッコスの彼が応えそうであるが…。

小泉八雲の「青柳之話」のあらすじ。(wikipedia より)

若い武士が山里で、年老いた両親と暮らす青柳と言う名の美女と知り合って妻に迎える。様々な弊害を乗り越えた後、領主にも婚礼を認められ幸せな毎日を送るが、あるとき美女は倒れてしまう。実は彼女と両親は柳の化身であり、本体である柳が伐採されることになったため、武士の妻でいることは出来なくなったのだった。美女は武士の腕の中で着物と簪^(かんざし)を残して消えてしまった。悲しみのあまり出家した武士は巡礼の旅で山里を訪れ、そこでむごたらしく切り倒された三つの柳の切り株を見つけ、そこに慰霊の墓標を建てるのだった。



展示会場の風景 （スナップ by 狩塚君）——この写真は作品ではありません。

我々の人生も残り少なくなってきました。来年も、この 42 会芸術展は行われるとのことですので、この際、上手下手は棚に上げて、皆で出品して愉しむのは如何でしょうか。

2025年5月10日 14:00より、不言亭にて、42会芸術祭の作品の展示が行われました。20人ほどの関係者が集まり、小さな美術館が出来上がりました。作品の展示終了後は、不言亭の真向えの飲み屋「せんだん」で、10名ほどの仲間で、ささやかな夕食会が催されました。





また、5月24日は作品の撤収日で、20名ほどが集まりました。長門純三副部長、佐伯眞知子部長の挨拶で始まり、全て無事終了しました。その後、17:00から「くろねこや」で慰労会が行われました。13名ほどの参加者でした。佐伯夫妻のご厚意もあり、大いに盛り上がりました。



「くろねこや」の黒猫ゼリー。 デザートに出されました。



楽しい秋(とき)は、直ぐに過ぎ去ってしまいます。皆さんが健康に恵まれ、生きいきとした、楽しい老後を送られることを祈ります。